九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

小山 勉教授 還暦祝賀論文集

https://doi.org/10.15017/10629

出版情報：法政研究. 63 (3/4), pp.1-4, 1997-03-21. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

小山勉教授 還暦祝賀論文集

題簽　河野正輝

還暦を祝して謹んで本書を

小山　勉　先生に

奉呈する。

平成九年三月

執筆者一同

九州大学教授　小山　勉　先生

教授は、昭和一一年六月二〇日に鹿児島県種子島に生まれ、昭和四二年早稲田大学第一政経学部を卒業後、直ちに、同大学院政治学研究科修士課程に進まれ、故堀豊彦教授の下で政治学修士号を取得の後、東京都立大学大学院社会科学研究科博士後期課程に進学され、半澤孝麿教授の下でフランス政治思想研究に従事された。その後、昭和四八年に新潟大学人文学部講師に就任され、昭和五二年には助教授、昭和五九年には教授に昇進された。なお、教授は同年、その重厚なトクヴィル研究によって、東京都立大学から法学博士の学位を授与された。教授は、翌昭和六〇年に法学部教授として九州大学に着任され、政治学史および比較政治学の研究・教育に携わってこられた。

教授の学問的関心は、デモクラシーにおける自由の実現をめざした一九世紀フランスの思想家トクヴィルを中軸に、教育問題をめぐる国家と教会の対立を切り口としたフランス近代国家の形成過程の研究、さらに近代国家全般の比較政治学的分析にまで広く及んでいる。教授は、過去の思想家や出来事に自らの世界観を仮託するという方法を厳しく拒み、丹念な研究を驚異的な忍耐力と知的誠実さによって積み上げることで、かえって、政治学界のみならず日本の民主主義の形成にも寄与してこられた。教授の代表的論文のタイトルの一部である「自由精神の政治学――比較文明的視座からのデモクラシー批判と形成原理」は、まさに教授御自身の知的営為を端的に特徴づけている。

教授は、学部での講義・演習に力を注がれるとともに、西欧の政治史・政治思想にかんする該博にして深い知見によって、政治学専攻の大学院生を研究者として養成することにも熱意を傾けてこられた。教授はまた、昭和六三年より四年間、日本政治学会理事を務められる一方、平成六年から現在に至るまで政治思想学会の理事を務められ、その間、平成七年五月に本学で開催された政治思想学会研究大会の運営において開催校理事として大いに活躍された。

大学人の任務の三本柱は、研究・教育・行政であると日頃力説しておられる教授は、新潟大学時代に学部改組に力を尽くされた後、九州大学においても、大学評議員、法学部長を歴任され、現在は図書館長の職にあり、法学部のみならず九州大学全体を新たな改革へと導くべく尽力してこられた。厳しい責任感とデリカシーの感覚の双方に裏付けられた教授の精力的なリーダーシップが全学的に高く評価されていることは、多言を要さないであろう。今後とも私たち後進に御指導を賜わるようお願いするとともに、教授のいっそうの御健勝と御活躍を祈念したい。

小山　勉　教授　著作目録

著書

『近代政治思想の諸相』（編著）　御茶の水書房　平成　八年　六月

学術論文

「デモクラシー社会における個人主義」（『東京都立大学法学会雑誌』第一三巻第二号）　昭和四八年　一月

「トックヴィルにおける民主的集権の諸問題
—『アメリカにおけるデモクラシー』を中心に—」（『法政理論』第一〇巻第一号）　昭和五二年　九月

「トックヴィルにおける自由と宗教
—一八四〇年代以後の政教諸問題を手がかりに—」（岩波書店『思想』）　昭和五二年一一月

「初期トックヴィルの知的形成とその同時代的背景
—一八〇五年から一八三一年まで—」（『法政理論』第一二巻第三号）　昭和五五年　二月

「トックヴィルの自由精神の政治学
—比較文明的視座からのデモクラシー批判と形成原理—」（一）（『法政理論』第一三巻第二号）　昭和五五年一二月

「トックヴィルの自由精神の政治学
—比較文明的視座からのデモクラシー批判と形成原理—」（二）
（『法政理論』第一三巻第三号）　昭和五六年　三月

「トックヴィルの自由精神の政治学
—比較文明的視座からのデモクラシー批判と形成原理—」（三）
（『法政理論』第一四巻第一号）　昭和五六年一一月

「トックヴィルの自由精神の政治学
—比較文明的視座からのデモクラシー批判と形成原理—」（四）
（『法政理論』第一四巻第三号）　昭和五七年　三月

「トックヴィルの自由精神の政治学
—比較文明的視座からのデモクラシー批判と形成原理—」（五・完）
（『法政理論』第一五巻第二号）　昭和五八年　一月

「トックヴィルとサンシモン派
—『産業国家観』をめぐって—」
（岩波書店『思想』）　昭和六〇年　七月

「トックヴィルと一八四八年革命」
（『政治研究』第三三号）　昭和六一年　三月

「アンシャン・レジームにおける権力体系の変容と『後見政治』の構造化
—トックヴィルの『行政的専制』国家解剖を中心に—」
（『法政研究』第五三巻第四号）　昭和六二年　三月

「ラムネーの『地方の自由』論」（『法政研究』第五四巻第二-四号）昭和六三年　三月

「トックヴィルの『文学的政治学』論
—一八世紀フランス・インテリゲンツィアの一考察—」（『法政研究』第五五巻第一号）昭和六三年一〇月

「学校の制度化力学と教会・国家
—復古王政期を中心として—」（『法政研究』第五七巻第四号）平成　三年　三月

「レジームの近代化過程における学校・教会・国家
—フランス革命期から第一帝政期まで—」（日本政治学会編岩波書店刊『日本政治学会年報』）平成　三年　八月

「フランス近代国家形成における学校の制度化と国民統合
—七月王政・第二共和政期を中心に—」（『法政研究』第五九巻第三-四号）平成　五年　三月

「フランス近代国家形成と知の権力性の集権的制覇
—第二帝政期における教育闘争をめぐって—」（『法政研究』第六〇巻第三-四号）平成　六年　三月

「教育闘争と知のヘゲモニー
—フランス第三共和政期を中心に—」（『法政研究』第六一巻第三-四号）平成　七年　三月

翻訳

B・バディ、P・ビルンボーム『国家の歴史社会学』日本経済評論社　平成　二年　九月

その他

「一九世紀フランスにおける反集権主義的国家論の系譜」
（文部省科学研究費補助金一般研究（C）　昭和六〇・六一年度）

「一八世紀の革命と近代国家の形成」
（文部省科学研究費補助金総合研究（A）　平成元・二年度、研究代表者　阿部斉）

「フランスにおける学校の制度化と国民統合―教会と国家の教育イデオロギー―」
（文部省科学研究費補助金一般研究（C）　平成四・五年度）

「文人政治家とフランス近代政治精神の特徴」
（文部省科学研究費補助金一般研究（C）　平成七・八・九年度）